

能登半島地震 災害支援レポート



2024年1月1日16時10分、石川県能登地方をM7.6の地震が襲いました。

住宅倒壊、住宅火災、地盤災害、津波被害など甚大な被害をもたらしました。

能登地方で観測された地震としては1885年以降で最大規模であり、兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)や熊本地震(2016年)のM7.3を上回っています。被害地域は北陸地方および新潟県で、死者は240人、負傷者は1,291人を超えています。(2024年2月現在)

当院からはDMATをはじめDMORT・J-RAT・災害支援ナースなどの多様なチームが派遣されています。今回は「エキサイだより号外」として支援活動をご報告します。

今回の地震に際し、被災された皆様には謹んでお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

DMAT

能登半島地震におけるDMAT支援活動

地震を感じた直後、DMATに派遣要請が入る災害が発生したと判断し、すぐに掖済会病院に向かい準備を進めました。翌1月2日の朝には石川県庁に向け出発し、到着後まもなくして七尾市の公立能登総合病院に設置されたDMAT活動拠点に移動しました。公立能登総合病院は天井が崩れた場所や断水しており余震も続いている状況でしたが、皆被災者のために不眠不休で奮闘していました。その後も当院から追加部隊が派遣され、県庁で別チームと会うこともあり、見知った仲間の姿に勇気づけられました。

2月2日から8日にかけて再び石川県庁に派遣された際は、県外に搬送された患者様の情報整理を行いました。被災地は支援が必要な状態が続いています。一日も早い復興に向け、DMATの支援活動に取り組んでいきます。



救命救急センター管理課 太田 雅博



石川県庁に向かう道。交通手段の限られる「半島」への経路確保に苦戦しました



被災した高齢者施設から、入居者を自衛隊の輸送用ヘリコプターで搬送します



1月2日、クラウドファンディングで購入したラビッドカーで第1部隊が出動しました



石川県庁のDMAT本部。各県から隊員が集まりました



後続部隊が続々と派遣されました



小牧空港に設けられたSCU(応急救護所)へもDMAT隊員が派遣されました

災害支援ナース

避難所での災害支援…看護師の不可欠な役割

災害支援ナースとして七尾市内の避難所へ

愛知県看護協会からの要請を受け、当院から中島友和さんと中村有作さんが、災害支援ナースとして被災地へと駆けつけました。

災害支援ナースは、被災地をサポートするための教育を受けた看護師です。被災した医療機関、社会福祉施設、避難所で活動します。

10日に七尾市内の小学校に設置された



中央手術部 中島友和(左)、透析室 中村有作(右)

避難所に到着し、12日まで石川県の災害支援ナースや他病院の支援者・ボランティアや行政スタッフと共に、約200人の被災者を支えました。

中島さんは行政との調整業務を中心に、避難所の清掃や消毒といった初期対応を担当しました。自らも被災しているながら被災者のために尽力する市職員やボランティアの姿に深く感銘を受けたそうです。

中村さんは、特に感染症対策に注力し、資源が限られた環境下で、感染リスクを最小限に抑えるための工夫を凝らしました。隔離スペースの確保やプライバシーを尊重したゾーニングを通じて、感染した人もそうでない人も安心して過ごせる環境作りに貢献しました。

今回の派遣を通じて、おふたりは防災意識の重要性と、いざという時にも冷静に対応するための看護師としてのスキル向上の必要性を痛感したと言います。

避難所で看護師が果たすことができる役割は非常に大きく、特に被災者の細かいニーズに気づき迅速に対応する能力は被災地で求められるので、日々の業務に戻った以降も、この度の教訓を忘れずに精進していきたいと語りました。

JRAT

JRATとしての災害支援

災害関連死を防ぐための長い支援が必要

1月5日、JRAT (Japan Disaster Rehabilitation Assistance Team)本部から派遣要請を受け、翌日には現地へと向かいました。

現地では、避難所支援を行う調査班、石川JRAT対策本部(石川本部)、そして石川県庁保健医療福祉調整本部(県庁本部)の3つのチームに分かれて活動しました。私の主な役割は、県庁本部での石川JRATの初動支援でした。避難所支援の方針、避難者やインフラの情報、福祉用具の調達ルートなど、県庁本部からの情報を調査班と石川本部と共有するロジスティクス業務を担当しました。情報は絶えず更新され、他の医療支援団体からの情報も



リハビリテーション部 理学療法士 森 雅大

JRATとは…

生活不活発および災害関連死を防ぐために、リハビリテーション医療・医学の視点から関連専門職が組織的に支援を展開し、被災者・要配慮者などの早期自立生活の再建・復興を目指す活動です。

手のぬくもりで支える

遺族の心のケアに当たる支援チーム。
当院から、新田満救急救命士が被災地で活動しました。

DMORTの活動は、現地の警察署の依頼のもと行われます。しかし、今回活動した石川県とはまだ協定を結んでいませんでした。そこで、まずは協定を結んでいる愛知県警から石川県警へDMORTの詳細な説明や協力を得るための打診を行って頂きました。

1月3日に石川県警より要請を受け、4日に当院を出発し、同日中に珠洲市に到着しました。遺族の支援といえば、積極的な声かけや励ましを想像される方もいるでしょうが、そのようなアプローチは時に遺族を傷つけることがあります。ただ、遺族の方に手を添え、「あなたは一人ではないよ」と手のぬくもりを伝えることも大切なのだそうです。

「自分が活動していたのは数日間です。やはり十分な支援ができたとは言えません。愛知県に戻るときは心苦しかったですね」と新田救命士は話します。遺族へのケアは、地域のサポート窓口とも連携していくことが必要だとされています。



救急救命士 新田 満(中央)

今後は遺族への長期的なサポート体制の確立と、DMORTメンバーの充実が目標です。災害に限らず、急に大切な人がいなくなるケースは誰にでも起こり得ることです。もしもあなたの身近にそのような人がいたら、静かに寄り添ってあげてください。

ディモート
DMORTとは…

Disaster Mortuary Operational Response Team の略で「災害死亡者家族支援チーム」と訳しています。わが国では災害直後から死亡者の家族支援を行うことを目的としています。

当院職員派遣一覧

| 派遣期間 | 派遣チーム | 派遣場所 | 出勤メンバー |
|-----------|---------|--------------------|---------------------|
| 1月2日～3日 | DMAT | 石川県庁保健医療福祉調整本部 | 北川喜己・新田満 |
| 1月2日～7日 | DMAT | 石川県庁保健医療福祉調整本部 | 萩原康友・太田雅博 |
| 1月3日～7日 | DMAT | 石川県庁保健医療福祉調整本部 | 丹羽一晃 |
| 1月4日～7日 | DMAT | 能登総合病院活動拠点本部 | 蜂矢康二・山田秀則・甲斐美政・早瀬友和 |
| 1月4日～7日 | DMORT | 珠洲市内 | 新田満 |
| 1月6日～11日 | JRAT | 石川県庁保健医療福祉調整本部 | 森雅大 |
| 1月7日～13日 | DMAT | 能登総合病院活動拠点本部 | 森岡慎也・運天匠・相沢百合子・横山優樹 |
| 1月10日～13日 | 災害支援ナース | 七尾市内避難所 | 中島友和・中村有作 |
| 1月14日 | DMAT | 小牧空港 SCU(広域搬送) | 市川敦子・佐藤崇史 |
| 1月21日～26日 | DMAT | 珠洲市保健医療福祉調整本部 | 後藤縁 |
| 1月25日～29日 | DMAT | 輪島市保健医療調整本部(輪島市役所) | 小川健一朗・丹羽一晃・市川敦子 |
| 2月5日～9日 | DMAT | 石川県庁保健医療福祉調整本部 | 萩原康友 |
| 2月5日～8日 | DMAT | 石川県庁保健医療福祉調整本部 | 太田雅博 |
| 2月11日～16日 | JRAT | 金沢市内の1.5次避難所 | 森雅大 |
| 2月11日～13日 | DMAT | 石川県庁保健医療福祉調整本部 | 後藤縁 |
| 2月18日～19日 | DMAT | 石川県庁保健医療福祉調整本部 | 北川喜己 |

インスタでも当院スタッフの活動をご紹介します

https://www.instagram.com/ekisai_nagoya/

